



# 学校だより 青い鳥

平成30年度6月号  
さいたま市立上落合小学校  
平成30年6月1日作成

さいたま市中央区上落合4-14-24 Tel 852-5381  
<http://kamiochiai-e.saitama-city.ed.jp/> E-mail:kamiochiai-e@saitama-city.ed.jp



## 電池の気持ち

校長 藤澤 太郎

カラッと晴れた日がしばらく続いたかと思うとジメッと曇天の日が訪れ、気温差も大きいので、気候への順応というよりも、「頑張るぞ！」と日々気合を入れて進むこの頃です。対して、子どもは元気！元気！学校いっぱい校庭いっぱいに元気がみなぎっています。若い力はうらやましくもあり、こちらが応援されているようでもあり、順次同調の流れとなっています。

5年生が館岩少年自然の家（宿泊学習）に行ってきました。初日の顔と、最終日バスを降り立った顔では大違い。各々（クラスも）成長しましたという自信の表情がとても頼もしかったです。

さて、今月は電池について、このところガソリンが高値です。ずいぶん前からそろそろハイブリッド車にしないと家族にすすめられつつ、しかし今は普通のガソリン車に乗っています。「地球に優しい」や「エコ」も大切なことですがその前に、ハイブリッドにした分だけかかった車体価格+数十万に対して、それをガソリン代で割った時に、何キロ走ればプラスに転じるの？（もとが取れるの？）か考え、それを優先させていました。最近のガソリン高騰で少し焦っています。

最近は電池も良くなりました。例えばラジコンカーは40年前はニッカド電池でしたが、あれから様々な種類の電池が登場しては消え、今ではリチウム水素電池が主流です。電池は乗用車に積んである電池も含め、使えば減る（劣化の方向に向かっている）という性質のものです。近い将来、半永久的に100%出し入れ可能な電池が出現する？と言われており、こうなった時には新たな未来が予測されることでしょう。

電池に気持ちがあったなら何て言うのでしょうか？「僕はあと500回充電したら使えなくなるよ」や「熱いのは苦手だなあ」や「リフレッシュさせてよ〜」という声は、実際は聞こえません。また、電池の別の一面としては、映画「ターミネーター3」の中で、ジョンを守る役のターミネーターが、サブパワーセル（制御された電池）を使って再起動するシーンがありました。あれを見て大方は、「やったー！これでT-Xをやっつけられる。」となったわけですが、一方で、「とても恐ろしいことだ。」と感じている向きも多かったのではないのでしょうか。何でもAIに任せる；これからの時代はAIのようなソフトと電池のようなハード両面をよく見ていかないとはいけませんね。電池もAIが制御する時代になりそうですね。

少々おかげさですが、このこと（電池との付き合い方）への考え方は、これからの時代を生きる子どもにはとても重要なことだと思っています。学校ではプログラミング（教育）等々がありますけれど、実際は、近未来を予見して自分たちにとって有効な手段を模索することが必要と感じています。今は、電池の種類に応じた対応が求められる時代です。劣化（電池が減って使えなくなる）したから廃棄という考えから、どうやってエネルギーを上手に扱うかという転換期にすべきことを生活全体から見直す必要があるのではと考えます。

ところで、ターミネーターのパワーセルは水素という設定です。映画が作られた十数年前に、既に「水素燃料」の実用化に見込みをつけていたことに驚きました。未来に向け、正しくエネルギー開発と進化が進むといいですね。今月は運動会からスタートします。頑張っていきましょう。

### 学校教育目標

あかるく

なかよく

たくましく